

## 新型コロナウイルス感染症海外短信 — ドイツV

2021年5月26日

加久間 景子\*

### 1. ロックダウン解除の具体的進め方

前回と同じく、イギリス型変異株が蔓延して以来、全国平均で10万人当たり100人以上（7日間の平均値<sup>1</sup>。以下同）超となった場合に、夜間の外出禁止令が発効する。現在（5月24日）現在、全国平均が65人前後、少ない地域は30人、多い地域最高160人と地域で差がある。

ドイツでは、ロックダウンの解除とは言わずに緩和というが、数字に合わせて前同100人を下回ると全ての店舗が開店し、コンサート・映画館等、一定の人数制限の中でオープン可能となる。しかし、100人近くでは、全員コロナテストが要求される等の措置が要求される。全てのロックダウン解除基準は、20人と決められているので完全解除にはまだ時間がかかる見込みである。

30人のところでは、旅行も認められ、ホテルも営業が認められる地域もある。但し、2日に一度迅速なコロナ検査が義務付けられている。

### 2. 変異株の状況

ドイツでは、イギリス型B.1.1.7が90%を占め、南アフリカ型B.1.351、ブラジル型P.1は1%、新たなインド型B.1.617は更に少ないという状態で、現状圧倒的にイギリス型である。

ワクチンの変異株への効果は、BioNTechは全てに効果がある。AstraZenecaは南アフリカ・ブラジル型変異株に対しては効果が減少、Johnson &

Johnsonでも似た減少が確認されている。インド型はドイツでは現状、症例が少ないが、ただし、今後の新たな変異株の可能性も含め、3度目のワクチン接種計画が既に進んでいる（有効期間の問題もあり）。時期は決まっていないが、来年始めから高齢者からと言われている。そのための自国での生産の段取りができてきつつある。なお、配給量は少ないが、Modernaワクチンも同様に使われているが、BioNTechと似た構造なので、特に問題とはなっていない。

### 3. ワクチン接種状況

ワクチン接種の順番は、昨年12月に定められた順番を変えていない<sup>2</sup>。70歳以上の人は、各人宛の手紙で予約の仕方の案内があったが、4月からはTV・ネット・ラジオ等での「お知らせ」に添って予約が行われている。当初より、予約のための国民番号といったものはなく、住所、年齢のみでネットや電話による予約を行ってきた。勿論、ワクチン不足で混乱した時があったのも事実である。（日本で問題となっている）接種する人材の問題も当初はあったが最近では問題となっていない。

現在、国民40%が1度目の接種を受け、14%が2度目を完了している状況にある。4月から開業医での接種が進み、大きく進展した。即ち、60歳以上では一度目の接種が60%になり、現在、2度目の接種時期となっている。

\* 在ドイツ音楽家。なお、本稿は、加久間景子氏からの情報提供を本財団理事長光多長温がまとめたものである。

<sup>1</sup> 東京都に置き換えると、2,000人/日

<sup>2</sup> 2020年12月のものを再掲する。

<p>(1) 第一グループ</p> <p>①80歳以上の高齢者</p> <p>②介護施設及び高齢者施設入居者</p> <p>③その施設で働く全ての人</p> <p>④自宅介護に携わる人（訪問介護）</p> <p>⑤医学的施設で危険度の高い部門に携わる人（例えば検査・研究室など）</p> <p>⑥直接、コロナの感染者の世話をする人（病院の緊急事態を受け付ける医者も含む）</p>	<p>(2) 第二グループ</p> <p>①70歳以上の人</p> <p>②精神病・痴呆症などの人、その介護者</p> <p>③移植手術者、その世話人</p> <p>④妊婦、そしてその世話人</p> <p>⑤全ての医者（特に患者と直接接点のある）</p> <p>⑥危険を伴う可能性がある警察官</p> <p>⑦ホームレス、難民の施設にいる者、その世話人</p> <p>⑧一般の保健所関係者</p>	<p>(3) 第三グループ</p> <p>①60歳以上の人</p> <p>②持病、たとえば心臓病、糖尿病の人</p> <p>③医学的施設で危険性の低い人</p> <p>④公の仕事の携わる人、政治家・議員など</p> <p>⑤教育者・教師</p> <p>⑥生活保護者</p> <p>⑦その他、危険な職業従事者、ゴミ集めなど（一例）</p> <p>(4) 第四グループ</p> <p>・60歳以下の全ての人</p>
---	--	---

6月7日からは、AstraZeneca、Johnson & Johnson ともにワクチン接種に関する全ての年齢制限の枠が撤廃されることとなる。但し、子供に関しては16歳以上からの接種から、12歳以上(現在BioNTechのみ許可が出ている)の接種に枠が広がることとなる。当然ワクチンの配給制約もあるので、直ちに全員への接種ということにはならないが、9月秋頃までには完了すると言われている。接種の枠が撤廃されることに伴い、接種希望者が殺到する事態も予想され、医療機関・組合から大きな批判が上がっている。

なお、ワクチン接種済の人、及びコロナ感染から完治した人の権利関係が法律で決定し、ヨーロッパ連合でも今夏からデジタル化が決定した。各国で時期やり方の違いはあるが、ヨーロッパ内での旅行の際のコロナ検査免除等(既にイスラエルでは開始済み)の措置が行われつつある。デジタル化が進むまで、世界一円での International certificates of Vaccination、即ち、黄色のワクチンのパスが有効となる予定である。

(以上)